

## 8-4-33 国土情報専門委員会

### 1. 主な活動の記録

国では、大型施策である防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に基づきDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進している。当委員会では、これらの成果でもある当業界が取り扱う“国土の健全な保全のために必要となるデータ”（＝国土情報）の流域治水における活用検討に取り組んだ。本取り組みで検討する流域治水とは、気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）までを一つの流域と捉え、流域に関わるあらゆる関係者（国、都道府県、市町村、企業、住民）が協働し、流域全体で水害を軽減させる考え方である。過年度までの成果を踏まえて行政関係者との意見交換の場を設け、流域治水に必要となる情報（流域基盤情報）の考え方や効果検証のための意見交換を行った。

#### (1) 委員会の開催

委員会を11回（令和5年4月～令和6年2月）開催した。令和5年度は13委員で活動を行った。

#### (2) 流域情報基盤の適用可能性の検討

検討には、3つのWG（ユースケースWG、流域基盤情報WG、運用システムWG）で検討した結果を有識者へサウンディングを踏まえて提言書としてとりまとめ、さらにこの成果について行政関係者（具体的には、国土交通省 水管理・国土保全局）と実運用に向けた課題や対応策に関する意見交換を実施した。

実施した意見交換は以下のとおり。

- ・第1回：令和5年10月4日  
当委員会の活動報告を実施
- ・第2回：令和5年12月5日  
検討及び進め方に関する報告および実施計画（案）のご相談
- ・第3回：令和6年1月

フィールド選定及びシナリオ検討に関する意見交換（情報収集のご相談）

第3回を踏まえて4月以降に継続協議を行い、実フィールドを選定の上、実データを用いて検証を行う方向で調整した。

#### (3) 会員向けセミナーの開催

令和5年度は、研究成果を具体的に取りまとめるには時間を要することから、会員向けセミナーの開催は見送った。

### 2. 次年度の活動について

令和6年度は、本年度事業を継続して、主に以下の研究活動を実施する予定である。

#### (1) 令和5年度成果の運用に向けた検討

国土交通省 水管理・国土保全局との意見交換を踏まえて検証するための実フィールドを調整の上、当委員会で検討した流域情報基盤の適用可能性および課題と対策の整理を行う。

#### (2) 会員向けセミナーの開催

(1)の研究成果について活用方法・効果や流域基盤情報に関する会員向けセミナーを企画・開催する。

（国土情報専門委員会委員長 政木 英一）